
第 28 章 洗礼

28. 1. 洗礼は、イエス・キリストが制定なさった新約の礼典として（マタイ 28:19）、受洗者を可見教会に厳かに加入させるだけでなく（I コリント 12:13）、彼にとって恵み契約と（ロマ 4:11、コロサイ 2:11、12）、キリストにつき木されること（ガラテヤ 3:27、ロマ 6:5）新生（テトス 3:5）罪の赦し（マルコ 1:4）イエス・キリストを通して神に屈服され、新しい命の中で行われることの（ロマ 6:3, 4）しるしであり、印証です。この礼典は、キリストご自身が定められものとして、その教会において世の終わりまで続けて執行されるべきです（マタイ 28:19, 20）。

水の洗礼は、聖霊の洗礼、あるいは、霊的洗礼を象徴します。新生の洗いと聖霊の新しくされることを証します。聖霊の洗いは、キリストと結合させて、キリストとの結合は、罪の赦しと救いの有益などを得るようになります。洗礼の目的として、主の民となり、キリストに熱心に仕えますということ、契約し、見せるしるしであり、キリスト教会に公式に介入するしるしであり、教会に属しているしるしです。他のキリスト者たちと結合されるという象徴の意味でもあります。

しかしクエーカー主義者たちは、水の洗礼が一時的な制度として、聖霊時代には、聖霊のバプテスマが、水の洗礼に対処されたと主張します。聖書的では

ない主張です。

28. 2. この礼典において用いられる外的な要素は、水であり（洗礼を受ける）当事者は、合法的に召された福音の教役者によって、父と子と聖霊の御名を通して、水によって洗礼を受けます（マタイ 3:11、ヨハネ 1:33、マタイ 28:19-20）。

洗礼の外的要素は水ですが、この要素は、キリストの血潮と霊を象徴します。水が体から汚れを洗い流すように、キリストの血潮が罪責を取り除き、汚れた良心を綺麗にします。父と子と御霊の名によって執行されるのは、三位の神の権威によって洗礼を受けることを意味します。洗礼は、合法的に立てられた福音の教役者によって執行されるべきです。

28. 3. その人を、水に沈めることが必要ではなく、洗礼は、その人の上に水を注ぎ、ふりかけることによって、正しく執行されます（ヘブル 9:10、19-22、使徒 2:41、16:33、マルコ 7:4）。

洗礼が執行する方式には、体に水を注いだり（マルコ 7:4）注ぎかけたり（ヘブル 9:19-22）水に浸る方式があります（使徒 2:41）。3 項において、水に浸るのが必須的ではないと述べました。水を注ぎ、ふりかける方式で洗礼を行うことができるかと述べています。しかし、バプテスト派では、ただ水に浸る方式だけが有効であると主張します。水に浸るのを強調するバプテスト派は 1637 年ドイツの再洗礼派から由来されたことと見ます。

28. 4. キリストに対する信仰と従順を個人的に告白するだけでなく（マルコ 16:15、16、使徒 8:37、38）、両親がみな信じる場合、また片親だけが信じる幼児らも、洗礼を授けるべきです（創 17:7、9、ガラテヤ 3:9、14、コロサイ 2:11、12、使徒 2:38、39、ロマ 4:11、12、I コリント 7:14、マタイ 28:19、マルコ 10:13-16、ルカ 18:15）。

洗礼を受ける以前に、信仰が先に求められ、確認されるべきです。信者の子供たちは、契約の中にいることと見なされ、洗礼を受ける権利があります。神がアブラハムと結ばれた契約は、今、信者たちと結ばれた契約と、その本質は同一です。それで子供たちに、幼児洗礼を授けることは、恵み契約の連続性と割礼と洗礼を類似することとして見て、信者の子供たちを別に区別して、契約を拡張させる面で、そしてイエスさまが子供たちを祝福なさったことから推測されることです。

ジョナサン・エドワーズの母方の祖父であったソロモン・ストッダード (Solomon Stoddard 1643-1729) は、ハーフウェイ契約 (Half Way Covenant) を考察して、父母の中で一人だけでも回心すれば、彼らの子供たちに洗礼を授けました。そのようなハーフウェイ契約によって教会が霊的に敬虔の力を失って行くことを心配して、改革しようとしたジョナサン・エドワーズは、それによって苦しみを経験しました。

再洗礼派とバプテスト教団は、幼児洗礼を反対して、今日の幼児洗礼を献身式 (dedication) として対処する教団もあります。それは、恵み契約の意味を完全に理解していなかったことから出てきます。

28. 5. この規定を侮り、またなおざりにすることは、大罪であるが（ルカ 7:30、出 4:24, 26）それにも関わらず、恵みと救いが、洗礼と分離できないように併合されているのではないので、洗礼なしで新生することができないとか、救われることができないのでもなく（ロマ 4:11、使徒 10:2, 4, 22, 31, 45, 47）また受洗者みなが疑いもなく新生されているではありません（使徒 8:13, 23）。

洗礼は、新生ではありません。受洗者がみな新生した訳でもありません。しかしローマカトリック教会は、洗礼が新生させると主張し、英国教会もローマ教会の教えに従っているが、それは誤りです。ルター主義者たちは、洗礼が救われるのに必須的で、洗礼を受けた瞬間に大体、新生すると主張するが、間違っています。

現代福音主義教会では、キリストを信じると決心すれば、新生すると伝えます。それを、決断新生論（decisional rebirth）と呼びます。同じように洗礼が新生をもたらすと教える者たちがいるが、誤りです。更に、今日の教会は、洗礼を無視して、教会の会員権が重要だと考えないのです。これは信者たちに、洗礼を侮るようにさせることです。

28. 6. 洗礼の効力は、洗礼が執行される、その時だけのものではなく（ヨハネ 3:5, 8）、けれども、その規定の正しい使用によって、約束されている恵みが提供され、神の定められた時に、神ご自身の御心に従って、恵みに属する者たちに（彼らが成人であろうと、また幼児であろうと）聖霊によって恵みが実際的に現れ、授与されます（ガラテヤ 3:27、テトス 3:5、エペソ 5:25, 26、使徒 2:38, 41）。

6項の説明は、ニューイングランド清教徒の教会論と違いがあります。¹⁰⁸ ニューイングランド清教徒たちは、必ず回心した者にだけ洗礼を授けました。また父と母両方とも回心した者の幼児だけに、幼児洗礼を授けました。幼児洗礼の場合、新生の必要性を強調することで、神が定めた時に回心させることを待ち望むようにすることです。一方で、洗礼を受けたすべての者が、みな新生したのではありません。

28.7. 洗礼の礼典は、どの人にも、ただ一度だけ執行されるべきです（テトス 3:5)

108 ウェストミンスター信者告白書は時々、意見がある場合は協議して調整された文句によって作成されました。